

(様式2)

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立小松高等学校

11

評 価 実 施 日		平成31年2月12日(火)		
委 員	氏 名	所 属 等		備 考
	池内 修	学校評議員	自治会役員	
	平塚 英治	学校評議員	小松公民館館長	
	佐藤 由利	学校評議員	老人保健施設あすか施設長	
	目見田 康介	学校評議員	元小松中学校長	
	真鍋 明	学校評議員	マルブン社長	
	篠原 栄次	西条市立小松中学校長		
	曾我部 研二	西条市立小松小学校長		
	真鍋 龍彦	P T A会長		
	上田 昇	P T A副会長		
	青野 裕美	P T A副会長		
	石田 利恵子	P T A副会長		
	今井 徳美	P T A副会長		
	評 価 ・ 提 言 等		提言等に対する改善方策等	
1 今年度の最終評価について (1) 学習指導 生徒に対するアンケート結果を見ると、授業の内容が理解できていないという生徒も一定数いる。指導方法の工夫などを行い、改善に努めて欲しい。 家庭学習時間の120分という目標が達成できていないのは残念である。小・中・高校が連携し、長いスパンで学習習慣の定着を図るなど、改善策が必要であろう。また、学力の向上には、既習事項の学び直しによる基礎学力定着なども効果的である。 中学校では、I C T機器を使った授業改善に取り組んでおり、高校でも同様の授業が増えてきていると聞いている。設備の面で制約があるとは思いますが、今後一層進めて欲しい。 (2) 生徒指導 遅刻ゼロの日が昨年度に比べ増加し年間目標の60日を達成しており、年間出席率も目標を超える98.7%となっていることはすばらしい。 登下校時のヘルメット着用はできているが、それ以外での着用率が低下しているように思う。周囲に交通の危険個所も多いので、交通マナーの徹底に取り組んで欲しい。 (3) 進路指導 インターンシップは、中学校でも平成31年度のU-15ジョブチャレンジに向けて取り組んでいる。生徒の多様な可能性に対応し、地元に貢献できる生徒を育成するため、中学校と高校の更なる連携が必要である。		教員の更なる授業力向上を図るとともに、生徒一人一人に、学ぶことの意義を考えさせ、一生懸命学習に取り組む雰囲気醸成したい。 本校生徒に必要な基礎学力を考えてカリキュラムマネジメントを行った上で、個々に応じた課題を工夫するなどして、生徒が意欲を持って学習に取り組めるような環境整備に努めたい。小・中学校と連携した指導も検討していきたい。 県立高校においても、来年度すべての学校でW i - F i環境が導入される予定であり、本校でもそれに伴い、教員の授業改善はもとより、「総合的な探究の時間」をはじめとして、生徒がI C T機器を使用する機会を増やしたい。 三学期に入り、体調を崩し欠席が増加した時期もあった。基本的な生活習慣の確立と併せて、一層の自己管理を促したい。 ヘルメット着用の意義を初めとして、自他の命を守るために交通ルール・マナー遵守は不可欠であることを、学校生活全体を通して繰り返し伝え、身に付けさせたい。 来年度は、進路課中心にインターンシップ先決定段階での指導を充実させる予定であり、今以上に進路選択に役立つインターンシップへとレベルアップを図りたい。		

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
(4) 特別活動 校内では部活動に対する評価が低い、小松高校の生徒は、部活動に非常に活発にいきいきと取り組んでいると思う。運動部を中心に気持ちの良い挨拶が見られ、特色ある文化部も活躍しており、小松高校のように多様な部活動を選択できるのは、中学生にとって魅力である。 生徒会活動や奉仕活動において、生徒の積極的取組が見られ、生徒の人間性の伸長に寄与していると感じる。今後とも地域に貢献できる人材を育成してほしい。 (5) 地域協働 「小松未来塾」「五百亀記念館五周年記念事業」「小松小学校における交流授業」など地域に根差した活動がよくできており、保護者や地域の人々の間でも小松高校への関心は高い。 2 学校運営への提言 教職員のアンケート結果から、「働くことへの充実感・満足感」「校務分掌への公平感」「職員室の仕事環境」などの項目で改善が望まれる。 各学校にとって、何を強みとしてアピールしていくか、また、生徒や保護者が入学して良かったと思える学校であるかが大切である。小松高生は、生き生きと登校している姿が地域でみられるが、今後さらに地域に開かれた学校として、特徴を打ち出していくと良い。	評価の低さは、生徒に活動内容が熱心な部活動を敬遠する傾向が強まり、いくつかの部活動で部員不足が進んでいることなどが、原因である。生徒の個性を尊重しつつも、本校の魅力である多様な部活動の維持・活性化に努めたい。 「植林ボランティア」「西日本豪雨被災地復興ボランティア・募金」「選挙の投票啓発活動」など、様々な社会活動に参加してきた。今後は、生徒自らの発案による活動も促したい。 「小松文化祭」などに参加し、「西条市愛唱歌『石鎚山』完成記念イベント」にも、参加予定である。今後は、地域の求めに応じた活動はもとより、「総合的な探究の時間」において、フィールドワークを行ったり、地域人材の活用を進めるなど、双方向の地域協働を目指したい。 すべての教職員に「平成31年度に向けての提言」を募り、その改善を通じて、働きやすい学校になるよう検討を重ねている。教職員間で十分にコミュニケーションが取れた風通しの良い学校を目指したい。 地域に開かれた学校として、地域を支える人材を育成するために、地域の問題を発見し、解決できる能力をあらゆる学校活動で育成していきたい。ライフデザイン科の地域と結びついた諸活動はもとより、普通科においても、「総合的な探究の時間」などで積極的に取り組みたい。

